

研究計画書

ゼミ名	奥田ゼミⅡ	チーム名	奥田ゼミ
タイトル	諸国民の学費		
テーマ群	f)歴史・思想 g)その他		
メンバー			
研究計画内容	<p>「研究背景」</p> <p>新型コロナウイルスの影響で全国の大学はオンライン授業になった。大学はオンライン授業になり前期授業で大学に通うことは無くなった。甲南大学では後期 10 月から対面の授業が始まったが一週間の内大学に通っているのは 3 日前後だという人も多いと思う。つまり、授業の半分ほどはオンライン授業のみである。オンライン授業では対面授業と比べて授業の理解度や集中力が違って来る。それに、前期の期間は大学の施設を学生が利用することもできなくなり、現在も人数制限などにより利用の機会が減っていることから十分な大学のサービスを受けられていない。このような状況にも関わらず学費が同じであるということに疑問を感じた。これによりそもそも日本の大学の学費は高いのではないかと考え、日本の大学の学費について外国と比較することで研究したいと考えた。</p> <p>「研究内容」</p> <p>最初に、日本の学費の現状から日本人は今の学費を高いと思っているのかについてアンケート調査を調べる。次に、新型コロナの影響による大学の収入と支出の変化と家計の影響を考慮し、所得に対する学費の割合を調べる。国富論を引用し、アダム・スミスの教育論についても述べるとともに日本の学費と外国の学費の比較も検討する。</p> <p>「期待される成果」</p> <p>諸外国の学費とその制度を比較することから得られるグローバルの視点から日本の学費について検討することができる。また、教育の必要性和学生の学費の支払いの負担と大学を卒業することで得られる利得を比較する。</p>		